

## ミノボロスゲ

*Carex nubigena* D.Don ex Tilloch et Taylor subsp. *albata* (Boott ex Franch. et Sav.) T.Koyama

### 【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有性階級 1、総点 12。北日本系の植物で、愛知県は分布域の南限に近い。県内では生育地も個体数も少なく、存続の基盤が脆弱である。

### 【形態】

多年生草本。匍匐枝はなく、株をつくる。茎は高さ 20~60cm、3稜があり、基部の葉鞘は赤褐色~黒褐色である。葉は細い線形、幅 2~3mm である。果期は 5~7 月、花序は卵状円柱形、長さ 3~5cm、小穂は密集してつき、卵円形、長さ 5~8mm、すべて雌雄性で上方に雄花、中下部に雌花をつけ、淡緑白色である。苞はあまり発達しないが、下方のものは時にやや葉状となる。果胞は 3 角状広披針形、長さ約 4mm、先端は次第に細まってやや長い嘴となる。雌花の柱頭は 2 個である。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東：1 富山 (小林 45216, 1993-7-11)、8 鳳来北東部 (畑佐武司 8419, 2012-6-29)、13 豊川 (小林 42719, 1993-5-14)。尾：50 名古屋北部 (芹沢 88386, 2013-5-25)。

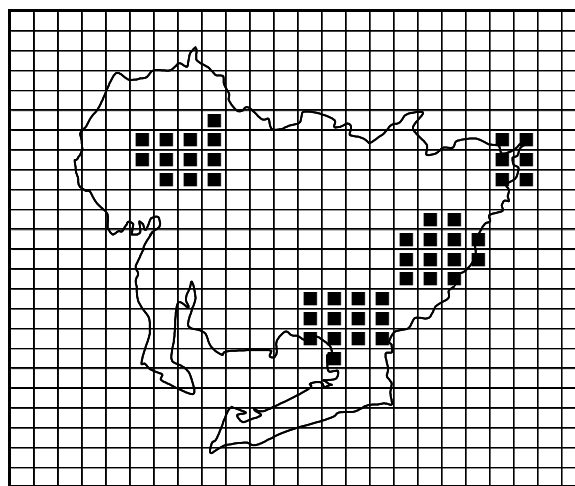
#### 【国内の分布】

北海道および本州中北部。

#### 【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

やや攪乱された湿った草地に生育する。しばしば湿地の路傍などに群生する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地	○			
水域				

### 【現在の生育状況／減少の要因】

4 カ所で、少数の個体が確認されているだけである。生育地はいずれも踏みつけなど軽度の攪乱を受ける場所であり、一方で車の乗り入れ、他方で帰化植物の繁茂などにより減少している。

### 【保全上の留意点】

本種のような植物の場合、存続のためには適度の踏みつけなどの人為的干渉が必要である。過度の干渉があっても、干渉がなくなっても消滅してしまう。このような場所も希少な植物の生育地として重要であることを、認識する必要がある。

### 【関連文献】

保草本Ⅲp.260, 平草本Ⅰp.167, 平新版Ⅰp.304, SOS 旧版 p.106.  
勝山輝男. 2005. ネイチャーガイド 日本のスゲ p.54. 文一総合出版, 東京.